

No.	資料名	頁数	年代	所蔵先
27	軍扇 徳川家茂所用	1	握 江戸時代 (19世紀)	久能山東照宮
28	黒塗多葉粉盆	1	式 江戸時代 (19世紀)	福井市春嶽公記念文庫 (当館)
29	徳川家茂筆「文行忠信」の書	1	幅 江戸時代 (19世紀)	越葵文庫 (当館保管)

第三章 長州出兵と松平茂昭				
30	福井藩 纒	1	旗 江戸時代 (19世紀)	越葵文庫 (当館保管)
31	福井藩 馬印	1	基 江戸時代 (19世紀)	越葵文庫 (当館保管)
32	御家中指物	1	帖 江戸時代 (19世紀)	松平文庫 (福井県立図書館保管)
33	元治元甲子年征長防御軍列	1	帖 明治12年 (1879)	松平文庫 (福井県立図書館保管)
34※	長州再征軍進発図	1	巻 慶応元年 (1865)	下関市立歴史博物館
35	長防州御征伐広島御宿陣附	1	枚 元治元年 (1864) 11月	下関市立歴史博物館
36	副将府証木製印	1	点 元治元年 (1864)	松平文庫 (福井県立図書館保管)
37	松原十郎勤書	1	冊 明治2年 (1869) 以降	個人 (当館寄託)
38	征長日記録	1	冊 元治元年 (1864)	福井市春嶽公記念文庫 (当館)
39	長征御出陣中豊前小倉市中下陣割略図	1	枚 元治元年 (1864)	松平文庫 (福井県立図書館保管)
40	征長出陣記	3	冊 明治25年 (1892)	松平文庫 (福井県立図書館保管)
41	長防機密書	2	冊 元治元年 (1864)	松平文庫 (福井県立図書館保管)
42	防疔散	1	通 元治元年 (1864) 3月以降	当館
43	長防臣民合議書	1	冊 慶応2年 (1866) 1月4日	下関市立歴史博物館
44	松平春嶽「登坂心覚」二	1	冊 慶応2年 (1866)	福井市春嶽公記念文庫 (当館)
45	三吉慎蔵宛 坂本龍馬書状 (複製)	2	紙1通 慶応2年 (1866) 8月16日	個人 (下関市立歴史博物館寄託)
46	坂本龍馬筆「新政府綱領八策」 (複製)	1	幅 慶応3年 (1867) 11月	下関市立歴史博物館
47※	和宮様御警衛ニ関する任命書	1	巻 慶応3年 (1867) 12月頃	江戸東京博物館

第四章 加賀藩と福井藩の参勤交代と大名行列				
48	下通山川駅路分間之図	1	巻 宝暦10年 (1760)	金沢市立玉川図書館近世史料館
49	下道中絵巻	1	帖	金沢市立玉川図書館近世史料館
50	下通山川駅路之絵図	1	巻	金沢市立玉川図書館近世史料館
51	前田家本郷屋敷之図	1	舗	金沢市立玉川図書館近世史料館
52	加賀藩江戸本郷邸泥絵	1	枚 江戸時代	石川県立歴史博物館
53	大名行列絵巻	1	巻	金沢市立玉川図書館近世史料館
54	加賀藩大名行列図屏風	8	曲1双 昭和15年 (1940) 頃	石川県立歴史博物館
55	加賀様御行列附	1	枚 江戸時代	石川県立歴史博物館
56	大名行列図	5	枚	金沢市立玉川図書館近世史料館
57	御道中奉行等触留	1	冊 文化15年 (1818)	金沢市立玉川図書館近世史料館
58	宿割帳	1	冊 万延元年 (1860)	金沢市立玉川図書館近世史料館
59	御参勤御供中日記	1	冊 安政年間	石川県立歴史博物館
60	政隣記 三十一	1	冊 文化11年 (1814)	金沢市立玉川図書館近世史料館
61	御道中日記	1	冊 明治時代	金沢市立玉川図書館近世史料館
62	御帰国御道中日記	1	冊 天保5年 (1834)	金沢市立玉川図書館近世史料館
63	金沢板橋間駅々里程表	1	枚 江戸時代	金沢市立玉川図書館近世史料館
64	江戸福井往還図屏風	6	曲1双	福井県立歴史博物館
65	内桜田之図	1	舗 文久3年 (1863) 改正	松平文庫 (福井県立図書館保管)
66	江戸常盤橋御屋敷之図	1	舗 江戸時代	松平文庫 (福井県立図書館保管)
67	東海道道中帳	1	冊 嘉永6年 (1853)	当館
68	福井城旧景	1	帖 昭和2年 (1927) 序	当館
69	福井藩主供立行列図	1	巻 江戸時代 (19世紀)	当館
70	十文字槍・槍鞘	2	点 江戸時代	越葵文庫 (当館保管)
71	中山道御参府御道中帳	1	冊 安政2年 (1855)	当館
72	家譜 治好公	1	冊 明治時代	越葵文庫 (当館保管)
73	東海日録草稿	1	冊 弘化2年 (1845)	福井市春嶽公記念文庫 (当館)
74	天保甲辰東海紀行	1	冊 安政4年 (1857)	福井市春嶽公記念文庫 (当館)
75	関札 (復元品)	1	枚	当館
76	武家諸法度	1	巻	越葵文庫 (当館保管)
77	家譜 茂昭公	1	冊 明治時代	越葵文庫 (当館保管)

※は場面替えや展示替えを行う資料です。

**関連イベント**

**特別展記念講演**  
**「見せる・観る・描かれる — 幕末の将軍上洛」**  
 講師：久住 真也 氏 (大東文化大学准教授)  
 ■日時／10月26日(土) 14:00～15:30 ※資料代100円

**連続見どころ講座**  
**「征長副総督松平茂昭の活動と役割」** 講師：山田 裕輝 (当館学芸員)  
 ■日時／11月2日(土) 14:00～15:30

**「福井藩・加賀藩の参勤交代」** 講師：印牧 信明 (当館主幹 [学芸員])  
 ■日時／11月9日(土) 14:00～15:30

---

ギャラリートーク (担当学芸員による展示解説)  
**第1章～第3章** (2階企画展示室) ■日時／10月13日(日)、20日(日)、11月16日(土)  
**第4章** (1階松平家史料展示室) ■日時／10月14日(月・祝)、19日(土)、11月17日(日)  
 いずれも14:00～(約50分)



## 福井市立郷土歴史博物館

FUKUI City History Museum

展示解説シート No.126

中核市・市制130周年記念／移転新築15周年／令和元年秋季特別展

# 将軍家茂と皇女和宮

— 行列が彩った二人の幕末 —

かずのみや いえもち

皇女和宮と14代将軍徳川家茂の行列は幕末という時代の象徴として様々な形で描かれました。本展では、行列の様子を描いた絵巻物や道具類を一堂に展示するとともに、幕末の政局に深く関わった福井藩の関係資料や幕府滅亡を予見した坂本龍馬の書簡から、一つの時代が終わり行く過程と福井藩の関わりを明らかにします(第1会場)。また、幕末期の大名行列について福井藩と加賀藩の参勤交代に注目し、その実態と特徴に迫ります(第2会場)。

## 第1章 和宮の江戸降嫁と婚礼



打掛 白輪子地雲立涌菊折枝文様 伝和宮所用 (徳川記念財団蔵)

皇女和宮は、弘化3年(1846)に仁孝天皇の8女として誕生した。父は和宮の出産前に崩御したことから、異母兄である孝明天皇の後見を受け、有栖川宮熾仁親王の婚約者として育てられた。しかし、日米修好通商条約の締結をきっかけとした朝廷と幕府との対立、つまり日本を統治していた「公儀」権力の動揺は、和宮を幕末政局の渦中に引き込むこととなった。幕府は、将軍家茂と和宮との婚姻、すなわち「公武合体」によって、動揺した「公儀」権力を回復しようと企図したのである。この案を受けた孝明天皇は、攘夷の実行を条件として万延元年(1860)に和宮の降嫁を勅許した。

このような経緯で決定した和宮の降嫁は、「公武合体」を国内外に喧伝するという政治的な背景から、江戸時代の中でも類を見ない大規模な行列となった。中山道を粛々と通行した長大な行列は、付き従った武士や沿道の人びとに強烈な印象を与え、絵巻物や摺物によって世間に伝えられた。また、和宮降嫁の際に仕立てられた婚礼の調度品は、内親王としての格式と権威を示すとともに、幕府と朝廷との融和を示す意匠が各所に散りばめられているのである。

● 次回の展示  
 松平家史料展示室  
**「大名家の蔵刀と五ヶ伝」**  
 令和元年11月27日(水)～令和2年1月19日(日)

「展示解説シート No.126」

令和元年10月12日発行

## 福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1  
 電話 0776-21-0489 FAX 0776-21-1489

担当／山田裕輝・印牧信明  
 印刷／小川印刷(株)

## 第2章 将軍家茂の上洛と松平春嶽

徳川家茂は、弘化3年(1846)に11代紀州藩主徳川斉順の次男として生まれ、4歳の時に紀州藩主を継いで慶福と名乗った。安政5年(1858)に13代将軍家定の後継者問題が勃発すると、慶福は11代将軍家斉の孫という血筋もあり、大老井伊直弼を中心とした南紀派の譜代大名たちに擁立され、14代将軍に就任した。13歳という若き将軍の誕生である。

家茂が将軍として在職した安政～慶応期の幕府は、桜田門外の変によって失墜した権威を回復するために様々な改革を断行した。中でも特筆すべきは、文久、元治、慶応の各時代に行われた、計3回におよぶ家茂の京都上洛である。その目的は、日本全体に関わる「国事」の方向性を左右するようになった朝廷に対し、将軍自らが畿内で周旋することで、幕府の政治的影響力を確保することにあった。また、将軍上洛に際しては行列の様子を描いたさまざまな錦絵が刊行され、「攘夷」を率いる将軍、「国事」に尽くす将軍というイメージが世間に広まっていった。このように能動的な将軍像が世間にアピールされた背景には、家茂の下で政事総裁職を務めた松平春嶽（慶永）の関与があった。



源頼朝公富士ノ狩場行列ノ図（大阪城天守閣蔵）

## 第3章 長州出兵と松平茂昭

将軍家茂の在職中において、最大の問題は長州藩の処分であった。禁門の変によって「朝敵」となった長州藩に対して家茂は西国21藩に出兵を命じ、尾張藩元藩主徳川慶勝を総督、福井藩主松平茂昭を副総督とした第一次征長軍が組織された。茂昭率いる福井藩兵は小倉城下に陣し、三条美美ら5人の攘夷派公卿の引き渡しを巡って緊張する長州藩領と対峙した。しかし、第1次出兵は早期解兵を主張した慶勝と総督府参謀の西郷隆盛の主導で長州藩の降伏、征長軍の解兵が布告されたため、福井藩は戦火を交えることなく小倉を後にした。

しかし、長州藩の処分内容が未確定だったこと、長州藩で高杉晋作を中心とする武力抗幕政権が成立したことで、幕府は慶応元年(1865)に長州藩への第2次出兵を決定し、家茂は自ら征長軍を指揮するため大坂城へと進発した。江戸出発時には徳川家康の遺品である金扇の大馬印が掲げられるなど、関ヶ原の戦いに象徴される徳川将軍家の武威を前面に出した行列が仕立てられたのである。しかし、藩を挙げた抗幕運動を展開する長州藩に幕府は苦しめられ、事態を打開できないまま家茂は慶応2年に大坂城で病死するに至る。「公武合体」の象徴たる将軍を喪い、家康以来の武威を失った幕府は、坂本龍馬の予見通り崩壊への道を歩んでいくことになる。



長州再征軍進発図（下関市立歴史博物館蔵）

## 第4章 加賀藩・福井藩の参勤交代と大名行列

江戸時代に大名が江戸に出仕することを「参勤(参観)」、領地に帰ることを「交代(交替)」、総称して「参勤交代」と呼んだ。寛永12年(1635)の武家諸法度によって制度化し、外様大名は毎年4月に交代で江戸に参勤することが定められ、同19年には譜代大名も毎年6月・8月の交代となった。

参勤交代は幕府の重要な大名統制策のひとつであり、原則的に大名は、1年おきに江戸と国許で居住したが、8代将軍徳川吉宗の時に緩和された時期もあった。文久2年(1862)に政事総裁職松平春嶽などが行った幕政改革により、参勤は3年に1度、または100日の在府と緩和されて、大名の妻子の帰国も許された。

国許と江戸を結ぶ参勤交代の経路は、各藩で概ね定まっており、最大の外様大名である加賀藩は、北陸道・北国街道・中山道を経由するルート(北国下街道)をほとんど利用し、親藩の福井藩は、北陸道・北国街道・北国脇往還・中山道・美濃路・東海道を經由するルートの利用が多かった。これらのルートを利用した際の所要日数は、加賀藩が13日前後が多く、福井藩が14日前後であった。

道中で大名はその家格や武威を誇示するために長大な行列を組んだ。人数は加賀藩の場合が4,000人から2,000人ほど、福井藩の場合が1,000人ほどであった。人数は江戸初期が多いとされるが、幕府による規制や藩財政の逼迫に伴って減少した。なお、大名行列は道中での戦闘に備えた部隊としての性格も兼ね備えていた。



加賀藩大名行列図屏風(右隻)（石川県立歴史博物館蔵）

### 出品目録

No.	資料名	頁数	年代	所蔵先
<b>第一章 和宮の江戸降嫁と婚礼</b>				
1*	和宮江戸下向絵巻	1巻	文久2年(1862)	江戸東京博物館
2	絲毛御車行列并御役人附	1枚	文久元年(1861)	江戸東京博物館
3	江戸泰平御固場所附・和宮様御当道筋御固	1枚	文久元年(1861)	江戸東京博物館
4	治安取締りの触	1冊	文久元年(1861)	江戸東京博物館
5	和宮様御通行并御返納金貨割帳	1冊	文久元年(1861)	江戸東京博物館
6*	打掛 白輪子地流水水菊牡丹文様 伝和宮所用	1領	江戸時代(19世紀)	徳川記念財団
7*	打掛 白輪子地雲立涌菊折枝文様 伝和宮所用	1領	江戸時代(19世紀)	徳川記念財団
8	村梨子地葵葉菊紋散花桐唐草蒔絵嗽碗・嗽台	1具	江戸時代(19世紀)	徳川記念財団
9	村梨子地葵葉菊紋散花桐唐草蒔絵湯桶・手洗	1具	江戸時代(19世紀)	徳川記念財団
10	黒塗葵葉菊紋散花桐唐草蒔絵硯箱	1合	江戸時代(19世紀)	徳川記念財団
11	黒塗葵葉菊紋散花桐唐草蒔絵文台	1基	江戸時代(19世紀)	徳川記念財団
12	和宮様京都より御下向并御入興御婚礼之記(『徳川礼典録』附録卷十上)	1冊	明治14年(1881)	越葵文庫(当館保管)
13	御本丸大輿絵図(『徳川礼典録』附録)	1枚	明治14年(1881)	越葵文庫(当館保管)
<b>第二章 将軍家茂の上洛と松平春嶽</b>				
14	東海道富士山眺望之図	3枚続	文久3年(1863)	当館
15	御上洛御用掛供奉御行烈附	1巻	文久3年(1863)1月	福井市春嶽公記念文庫(当館)
16*	頼朝公平家追討之図	3枚続	文久3年(1863)2月	大阪城天守閣
17*	源頼朝公富士ノ狩場行列ノ図	3枚続	慶応元年(1865)5月	大阪城天守閣
18	大坂名所一覽	9枚続	慶応元年(1865)閏5月	大阪城天守閣・大阪歴史博物館
19	大阪城郭図	1舗	文久3年(1863)以降	松平文庫(福井県立図書館保管)
20	諸御大小名御固銘細附	1巻	文久2年(1862)12月以降	福井市春嶽公記念文庫(当館)
21	将軍進発における老中布告写	1通	文久3年(1863)1月23日	越葵文庫(当館保管)
22	松平春嶽宛徳川家茂書状	1幅	文久2年(1862)6月27日	福井市春嶽公記念文庫(当館)
23	松平茂昭宛松平春嶽書状	1巻	文久2年(1862)閏8月25日	越葵文庫(当館保管)
24	松平茂昭宛松平春嶽書状	1巻	文久2年(1862)12月21日	越葵文庫(当館保管)
25	松平春嶽宛近衛忠熙書状	1巻	文久2年(1862)12月13日	当館
26	蒔絵絲威具足 徳川家茂所用	1領	江戸時代(19世紀)	久能山東照宮